

医療政策クラークシップ・プログラム 第2回

2005年2月28日～3月11日

近藤研究室

医療政策クラークシップについて

東京大学先端科学技術研究センター
特任助教授 近藤正晃ジェームス

日本の新たな医療政策を組み立てる人材が求められています。

国民の医療政策に対する関心は高く、あらゆる生活領域の中で医療分野に対する関心が最も高いという調査結果が出ています。その一方で、国民の実に9割以上が現行の医療制度に不安を抱えているとも報告されています。この国民の期待と不安に応え、医療政策の改善と改革に取り組める人材が求められているのです。

医療政策人材の育成が難しいのは、医学と政策の双方に通じることが求められているからです。法学や経済学を学んだ人が医学部に入り直すことは日本では稀です。一方で、医学を学んだ人で、政策の世界に入る人も現時点では限られています。

今回の医療政策クラークシップは、こうした医療政策人材を育成するための一つの試みです。このような機会を通じて、医学生が政策に対する理解と興味を高め、また政策当事者が医学生へ門戸を開くきっかけになれば幸いです。

☆ ☆ ☆

このクラークシップは、中央省庁、地方自治体、大学、患者会の皆様のご理解と多大なるご尽力ではじめて実現することができました。皆様に厚く御礼申し上げます。

今回のクラークシップ参加者の中から、将来の日本の医療政策を担う人材が誕生することを願ってやみません。

第2回医療政策クラークシップによせて

(第1回医療政策クラークシップ参加者)
東京大学医学部医学科6年 岡田随象

医療政策クラークシップを受講する皆さん、こんにちは。M4の岡田随象と申します。昨年このクラークシップが初めて開設された時に参加した者です。今年も引き続き開設されることとなったと聞いたので、参考までに私の感想を述べさせていただきます。

「何故今医療政策が重要か…」といった話はもうしなくてもいいでしょう。近藤先生による大変興味深い講義を受けるまでもなく、このクラークシップを選択した皆さんには既にその必要性が感じられているはず。ただ一つ付け加えるなら、もはや医療を取り囲む領域は医師だけではなく、政界・経済界を含む極めて巨大な分野であるということです。国民のニーズや市場原理化に対応していくことも重要ですが、その過程で医師としてのスタンスを保ち、イニシアチブを発揮していくことも必要です。そういった意味では一旦病院内での実習を離れ、外から医療の姿を見つめる良い機会になると思います。

近藤研究室のスタッフの方々には外資系コンサルタント会社の出身です。医師とはスタンスの異なる分野ではありますが、問題解決に対する行動力や分析力、そして結果を世の中に発信していくことにかけては我々医者が到底及ばないポテンシャルを持った人たちです。ロジカルシンキングやインタビュースキルなど、実習の中で様々な「技」を学ぶことができ、私にとっては大変有意義な実習でありました。2週間という短い期間ではありますが、是非とも最大限の事を吸収してみてください。

最終日には実習成果の発表があります。通常の医学実習では、あくまで実習の中で完結してしまい、良い結果が得られてもなかなか現場に還元されないのが実情です。しかし今回は初めから社会へのアピール、即ち政策提言を前提としています。例え学生であっても自分達の生み出した結果が社会に影響を与えられるという事実はとても刺激的なものでした。皆自然と熱が入り、誰に言われるわけでもなく連日終電までかかって発表準備をしていたのを覚えています。黒川清先生を始め各界の著名人を前に発表したのが大変有意義な体験であったのはいうまでもありません。

私自身は、クラークシップでお世話になったのが縁となり、結局夏ごろまで研究室に出入りして幾つかのプロジェクトをお手伝いさせていただきました。その過程を通じて多くのことを学べたのも貴重な経験でした。

最終日の発表には私も同席させていただこうかと思います。皆さんが有意義な2週間を過ごされることを心より願っております。

概要

研究内容

テーマ:がん関係者への意識アンケート票の作成

内容 :19名のがん関係者(患者、家族、遺族)に対し、各1時間にわたるインタビューを実施。がん治療に関する意識を把握した上で、その調査結果を元に、全国で実施するアンケート票を作成。最終日の報告会では、医療政策関係者の前で、アンケートの草案を発表。

スケジュール

2月28日(月)

オリエンテーション

ロジカル・シンキング入門(マッキンゼー出身者)

医療政策概論(近藤)

3月1日(火)

経済産業省でのヒアリング

財務省でのヒアリング

3月2日(水)

インタビュートレーニング

患者インタビュー

3月3日(木)

レクチャー(日経メディカル 編集長 埴岡氏)

レクチャー(読売新聞 記者 本田氏)

厚生労働省でのヒアリング

3月4日(金)~3月7日(月)

患者インタビュー

プレゼンテーションスキル入門(マッキンゼー出身者)

3月8日(火)~3月10日(木)

患者インタビューの結果解析並びにプレゼンテーション準備

3月11日(金)

報告会

ご協力を頂いた皆様

(五十音順)

- 安藤 崇雄 経済産業省経済産業政策局産業構造課経済産業事務官
- 小黒 奈々 東京大学先端科学技術研究センター黒川研究室協力研究員
- 黒川 清 日本学術会議 会長
- 迫井 正深 厚生労働省大臣官房厚生科学課課長補佐
- 添田 隆秀 経済産業政策局 産業構造課調整係長
- 中田 貴士 経済産業省 商務情報政策局サービス政策課/サービス産業課
課長補佐
- 埴岡 健一 東京大学特任助教授
日経BP社 日経メディカル編集部編集委員
- 本田 麻由美 読売新聞記者
- 矢野 康治 財務省主計局厚生労働係企画官(社会保障予算担当)

【インタビュー】

第1回がん患者大集会 事務局

がんとともに生きる会

がんを語る有志の会

支えあう会「α」

市民のためのがん治療の会

東京肝臓友の会



関 浩道(せき・ひろみち)
東京大学医学部5年

今回、医療政策クラークシップ・プログラムに参加させていただき、とても充実した時間を過ごすことができました。自分の視野が広がるような医療を取り巻く政策に関連した話を聞くことができた他、ロジカルシンキングやインタビュースキルなどの技術的なことを学ぶこともできました。そしてまた、がん関係者の方々の医療に対する批判や期待を生で感じ取れることができたのは何より印象に残っており、非常に参考になりました。これらの経験はどのような道に進むにしても、かけがえのないものとして自分の中で生き続け活かされていくものと確信しています。貴重な体験をする機会を与えていただき本当にありがとうございました。



野元 昭弘(のもと・あきひろ)
東京大学医学部4年

臨床の傍らで疾患の病態解明や治療に直結した研究をしたい、と考え医学部へ進学。医学教育の中で基礎と臨床、医療現場と医療政策の乖離を感じた。特に後者について医療政策決定の流れに触れたいと思い、今回実習に参加した。理想的な抽象論によってではなく、現実的な議論を基礎とした上で、マクロな視点で自分の為すべきことを模索し、達成への展望を組んで、目標に向かって突き進みたい。



柳下 祥(やぎした・しょう)
東京大学医学部3年

5年生以外でも参加できるということで喜んで参加させていただきました。まだ病院実習にも出ていない状態で、癌の患者様や遺族の方のお話を聞くという重い体験を先端研という無機質な空間の中でしたことは今でも不思議な感覚として残ってます。「医療への不平や不満」という言葉を慣れないままに使いながらインタビューをし、結局「ああこれがまさに不満なのか」という感覚を得られぬまま終わってしまいました。いつかそういうことがわかるといいなと思います。



丸山 慧史(まるやま・さとし)
東京大学医学部5年

医療政策についてほとんど何も知らないで興味だけで飛び込んでみましたが、とても実りのある2週間だったと思います。先生方、お役人の方々がどのように現状を認識し、どのようなアプローチを考えているか、それに触れられるだけでなく、限られた時間の中で一定の成果を挙げなくてはならないトレーニングもつめました。途中つらい過程もありましたが、必ずや明日の糧になると信じています。是非病院の外での「医療」にも眼を向けてみてください。



藪内 章雅(やぶうち・あきお)
 東京大学医学部5年

東京大学
 「鉄門だより」
 2005年5月号掲載

医療政策人材養成プロジェクト

2月28日から2週間
 M3からM1まで3学年
 6名が参加し、「医療政
 策ワークショップ」とし
 て駒場第二キャンパスの
 近藤正英ジェームス研究
 室にて実習した。

今年、今月28日に大
 阪NHKホールにて開催
 されるがん患者大集会に
 向けて、がん治療の現状
 についての事前アンケー
 ト試作を目標とした。

第1週前半は医療政
 策、主に近藤助教授の専
 門である医療経済分野
 に関するレクチャーを受
 け、政策の担い手である
 経済産業省、厚生労働省、

財務省の官僚に医学生
 の立場からヒアリングに
 行き、またがん治療に詳
 しいジャーナリストにも
 話を聞いた。第1週の終

わりからは20名弱の患者
 及び御遺族に聞き取り調
 査を行い、がんの治療を
 実際に受けて感じた問題
 点や改善を要する点につ

いて聞いた。それらイン
 タビュー結果を分析し、
 試作したアンケートを持
 ち、最終日に黒川清先生
 や各省庁の方々の前で実
 習報告会を行った。

試作したアンケートは
 近藤研での最終的な手直
 しを経て、ネットで公開

されて結果が集まりつつ
 ある。昨年同様、発表前
 日には皆で泊り込みで準
 備したが、この徹夜の共
 同作業はこの実習の魅力
 の一部だろう。

臨床実習で勉強してい
 く中で、医療制度に問題
 点を見出すことは少なく
 ない。今回の実習期間に、
 課題であったがん治療の
 問題だけでなく、さまざま
 な医療制度や医療政策
 に対して、各人が持つ問
 題意識を真剣に学生同士
 で語り合う貴重な機会を
 得られたことは、今回の
 参加者全員にとって大き
 な収穫だったと思う。

(M4 藪内章雅)



山下 真吾(やました・しんご)
東京大学医学部医学科5年

とてもためになる2週間だったと思います。患者さんが日頃感じていらっしゃる不満を知ることができましたし、財務面、行政面、など様々な観点から現在の医療制度はどのような問題点をはらんでいるのかが分かるとてもいい機会になると思います。

また、実務的な面で、ロジカルな考え方を身につけることができる2週間でもありました。何より第一線で活躍していらっしゃるいろいろな方のお話を伺えるので、とてもいい刺激を受けることができました。みなさんもぜひすてきな2週間にしていただければと思います。